

施策評価表

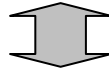
評価施策名	4 大学等と連携し、ともにまちをつくる	施策CD	44	施策主管課	企画推進課	課長名	市原 丞
政策名	第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く			施策関係課	美山地域総務課		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

○大学等と連携し、卒業後も含めて定住化を図り地域の活性化を進める。

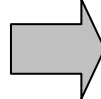
目標項目(成果)	単位	H20		H21	H24
		目標値	実績値	目標値	目標値
学生による地域活動参加割合(大学アンケートによる回答率)	%	10.0	8.9	10.0	15.0
大学との交流が盛んと思う市民の割合(市民意識アンケートによる回答率)	%	25.0	27.6	30.0	50.0
南丹市に魅力を感じる学生の割合(大学アンケートによる回答率)	%	40.0	40.0	42.0	50.0



1 南丹市の現状(課題)

○明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、公立南丹看護専門学校、佛光大学園部キャンパスといった多くの高等教育機関が立地しており、約3,700人の学生が行き交うが、計画づくりや政策決定プロセスなどにおいて、知的財産を十分に活用できていない。  
○より多くの学生が市内に居住できるよう、生活環境の利便性の向上を図る必要がある。また、卒業後も本市において就業・定住できるような環境整備ができていない。

(現状)  
・連携支援組織の設置 未設置(平成19年)



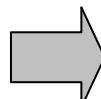
2 対策をしなければどうなるのか

○地域の活性化に寄与する地域資源を活用できない。  
○人口減少に歯止めがからない。



3 それが何故おきたのか

○南丹市の地域資源である多くの学生を活用する手立てができていない。  
○合併前から多くの高等教育機関が立地していたが、行政との十分な連携がとられていなかった。



4 それらを解決するために何をやるのか

- ①地域と市内大学等の連携によりお互いに開かれた地域づくりを進める。
  - ・大学と企業や行政の連携を進めるコーディネート連携支援組織の設置
  - ・産学官による定期的な連携会議の実施
  - ・地域と教育機関が交流する仕組みづくりの支援
  - ・大学等の積極的な連携
- ②学生にとって暮らしやすく、魅力あるまちにする。
  - ・学生支援策の検討
  - ・学生に対する就業、住宅等の斡旋
  - ・学生の様々な課外活動への支援
- ③市の抱える課題を明確にし、大学等の調査研究機関としての知識と知恵及び学生の若い力を活用する具体的なテーマを設定する。そのためにも、一定の財源を予算化する。
- ④関係学校のネットワークを構築する。

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H19決算	H20決算	H21予算	H22計画
決算額(計画額)	千円	250	483	220	220
職員給与費、共済費等	千円	0	0	0	0
財源	千円	0	0	0	0
内	千円	0	0	0	0
訳	千円	250	483	220	220
職員従事人数	人・年	-	0.25	-	-
人件費	千円	-	1,715	-	-
事業費総額	千円	-	2,198	-	-

【構成する事業】

会計CD	事業CD	事業名(細事業名)	担当課	決算額(千円)
102106	20020	パートナーシップ推進事業(大学等連携協力事業)	美山地域総務課	483

【総合評価】

- ①目標の達成状況  
各種アンケートの回収率だけを見ると、ほぼ目標値に達成しているが、本来の趣旨の目的を達成出来たとは言えない。
- ②目標値や施策の考え方を見直し  
大学と連携し、学生目線や南丹市民外目線で、地域の活性化や市民協働の仕組みを考えることは非常に有益なことであり、より議論を深めていく必要がある。

【改善の方向性】

- ① 今後の方向性 ②事業の対応  
新しい施策の中にも「ふるさと共済事業」も実施され、大学連携事業が少しづつ進みつつある。南丹市内の大学との連携があまり出来ていない、約3700人の学生の街としての機能が十分に果たせていない状況である。  
南丹市内に居住できる環境や、卒業後も定住が出来る環境整備に努める必要がある。

※評価の結果と経過

--